

松平藩時代の津山城では、普段は閉め切っている天守や櫓の風入れを気候の良い時期に行っていました。それに合わせて、天守に保管していた検地帳と郷村帳の風入れも行っていました。

検地帳は、領内の田畑の等級や生産高、耕作者などが記載された最も基本的な台帳で、森家が実施した慶長9年（1604）のものが大切に保管されていました。また郷村帳は、幕府から拝領した領地の村々の詳細が記載された目録で、領地の朱印状に添えられていた大切な書類でした。検地帳と郷村帳が、通常の櫓ではなく天守に保管されていたことから、領地に対する大名家の思いが象徴されています。文化14年（1817）に5万石の加増を受けた時にも、勘定奉行が引き継ぎで渡された新領地の検地帳を天守に納め、大目付に報告をしています。

このように大切に保管されていた検地帳と郷村帳ですが、日常的に使う書類ではないので、時々風を入れるなど、虫やカビへの対策が必要でした。そのため、検地帳と郷村帳を管理していた勘定奉行が責任者として、定期的な管理を実施していたのでした。

しかし、天守の管理は勘定奉行の管轄ではなく、管理担当の中奥目付の指示がなければ、勘定方の配下が勝手に天守に入ることはできません。そこで、櫃に入れられて天守に保管されている検地帳と郷村帳の風入れを天守の風入れの日に合わせて実施するようになったのでした。

天守の風入れが行われたのは、おおむね8月から9月の晴天の日で2、3日行われます。勘定方に

津山城百聞録

～津山城天守の検地帳と郷村帳～

は事前に連絡が入るので、その日程の中で1日を検地帳と郷村帳の風入れに充てます。勘定吟味役や下代など数人が午前8時ごろから作業に掛かり、午後4時ごろには再び収納したことが記録に見られます。

天守の風入れが実施されるのは、毎年ではなく、どうやら藩主の参勤年に実施していることが多いようです。藩主が在城している時には、天守に登ることもあるので、江戸詰の時に風入れを行うことにしていたと思われます。この一年置きの実施は、勘定方にとっても恒例となっていた様子で、勘定奉行日記の中で「当年は御帳風入れの年に付」といった表現が見られます。

ただ、このようにしっかりとした管理がなされていても、やはり虫食いなどを完全に防ぐことはできなかったようで、時折、傷んだ帳面の写し替えが行われていました。



▲ 天保9年（1838）に書かれた郷村帳（左）とそれを入れていた封筒（右）

4月中のひとの動き

人口	110,583人	(前月比+129)
男	52,762人	(同+66)
女	57,821人	(同+63)
世帯	43,530世帯	(同+157)
転入	552人	転出 427人
出生	86人	死亡 82人

(5月1日現在)



広報つやまは、環境保護のため古紙配合率100%再生紙、大豆油インキを使用しています。読み終えた後はリサイクルにご協力ください



つぶ・や・き

編集室

小学生や園児のほかに小さな子ども達も来ていたれんげパーティー。子どもにレンゲを摘んであげるお母さんの表情がとても優しく素敵でした。子どもが小さい時って本当に一瞬。一緒に時間を大事にしたいですね。(和)

Xさんの携帯電話につながらない。滝の取材、一緒に行けば良かった。頭の中で大きく膨らんでゆく不安。予定より2時間遅れて連絡があった。「携帯の電池切れました」の言葉に安堵するも急激に体の力が抜けていきました。(2)

2さんご心配お掛けしました。広戸仙1日コースは登山初級の私にはちょっときつかった～。倒木や落石、狭い道…。ブナの森で元気をもらえたのが救いでした。半日コースなら余裕を持って山頂から津山を眺められますよ。(X)



編集・発行（毎月10日発行）
津山市企画部市長公室（市役所3階）
〒708-8501 岡山県津山市山北520番地
☎0868-23-2111(代) ☎0868-32-2152
Eメール kouhou@city.tsuyama.okayama.jp

☆広報つやまはホームページで閲覧できます。
<http://www.city.tsuyama.okayama.jp/>

